

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

☒ Select All
☒ Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Format
 Display Selected Free

1. ☐ 1/5/1 DIALOG(R)File 352:Derwent WPI (c) 2007 The Thomson Corporation. All rts. reserv.

0007958263

WPI Acc no: 1997-048213/199705

XRAM Acc no: C1997-015624

Pearl-like glossy compsn. for hair, etc. - comprises fatty acid isopropanol amide, surfactant, siloxane cpd., etc.

Patent Assignee: KANEBO LTD (KANE)

Inventor: YAMAGUCHI J

Patent Family (1 patents, 1 countries)

Patent Number	Kind	Date	Application Number	Kind	Date	Update	Type
JP 8301724	A	19961119	JP 1995135816	A	19950508	199705	B

Priority Applications (no., kind, date): JP 1995135816 A 19950508

Patent Details

Patent Number	Kind	Lan	Pgs	Draw	Filing Notes
JP 8301724	A	JA	6	0	

Alerting Abstract JP A

The compsn. comprises fatty acid isopropanol amide having 8-16C acyl gp., surfactant, siloxane cpd. and polymeric cpd. having >2000 cps of viscosity measured using 1% aq. soln. at 25(deg)C by B-type viscometer except siloxane cpd.

ADVANTAGE - The compsn. gives superior feeling of use to hair and has superior conditioning effect, pearl-like gloss and dispersion stability.

Title Terms /Index Terms/Additional Words: PEARL; GLOSS; COMPOSITION; HAIR; COMPRISE; FATTY; ACID; ISOPROPANOL; AMIDE; SURFACTANT; SILOXANE; COMPOUND

Class Codes

International Patent Classification

IPC	Class Level	Scope	Position	Status	Version Date
A61K-007/00			Main		"Version 7"
A61K-007/06; A61K-007/075; A61K-007/08; A61K-007/50			Secondary		"Version 7"

File Segment: CPI

DWPI Class: A96; D21

Manual Codes (CPI/A-N): A06-A00E3; A12-V04A; D08-B03

Derwent WPI (Dialog® File 352). (c) 2007 The Thomson Corporation. All rights reserved.

☒ Select All
☒ Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Display Selected Format
 Free

© 2007 Dialog, a Thomson business

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-301724

(43) 公開日 平成8年(1996)11月19日

(51) Int.Cl.⁶

A 6 1 K 7/00

識別記号

庁内整理番号

F I

A 6 1 K 7/00

技術表示箇所

V
C
J

7/06

7/075

7/06

7/075

審査請求 未請求 請求項の数 4 F D (全 6 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号

特願平7-135816

(22) 出願日

平成7年(1995)5月8日

(71) 出願人 000000952

鐘紡株式会社

東京都墨田区墨田五丁目17番4号

(72) 発明者 山口 順士

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘紡株式会社化粧品研究所内

(54) 【発明の名称】 パール光沢状組成物

(57) 【要約】

【構成】 脂肪酸イソプロパノールアミド、界面活性剤、シロキサン化合物、1%水溶液が25℃で特定の粘度を持つシロキサン化合物を除く高分子化合物、パール光沢剤を含有するパール光沢状組成物。

【効果】 毛髪に対して優れたコンディショニング効果を有し、使用性に優れ、分散安定性に優れ、優れたパール光沢状を示す。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 平均炭素数が8乃至16未満のアシル基を持つ脂肪酸イソプロパノールアミド、界面活性剤、シロキサン化合物、25℃で1%水溶液の粘度がB型粘度計によって2000cps以上であるシロキサン化合物を除く高分子化合物、パール光沢剤を含有するパール光沢状組成物。

【請求項2】 イオン性界面活性剤の一種または二種以上を含有する請求項1に記載の組成物。

【請求項3】 シロキサン化合物を除く高分子化合物がカチオン化セルロースである請求項1または2に記載のパール光沢状組成物。

【請求項4】 パール光沢剤が脂肪酸グリコールエステルである請求項1または2または3に記載のパール光沢状組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、毛髪などに対して優れた使用感、コンディショニング効果を有し、分散安定性に優れ、かつ優れたパール光沢を有するパール光沢状組成物に関するものである。

【0002】

【従来の技術】近年の消費者のヘアケア意識の高揚に伴い、ヘアケア製品に対する要望が多様化してきている。このような製品においては、シャンプーの洗浄性や起泡性、リンス・トリートメントの仕上がり感だけでなく、塗布時の髪への延展性の良さやなじみやすさ、指通りの良さ、すすぎ時に髪がきしまない等の使用性の良さが求められている。また、使用性のみならず、外観上の美しさや高級感を求める声も多く、このような要望に対し美しいパール光沢を与えることが試みられている。

【0003】一方、従来、シャンプーやリンスには優れた仕上がり感を得るために、コンディショニング剤として、高分子ジメチルポリシロキサン等などが広く用いられている。しかし、高分子ジメチルポリシロキサンを水を分散媒とした系に配合した場合、その分散安定性の点で問題があった。この対策としてキサンタンガムを用いる方法（特開昭61-210022号公報）、長鎖アシル誘導体などを用いる方法（特開平1-13013号公報）、脂肪酸アルカノールアミドを用いる方法（特開平3-135909号公報）などが紹介されている。しかしながら、キサンタンガムを用いる方法では塗布時の延展性や使用時の指通りが十分でなく、脂肪酸アルカノールアミドを用いる方法では、脂肪酸アルカノールアミドを5～80重量%（以下、単に%と略す。）配合する必要がある、すすぎ時に特有のきしみ感を有するなどの欠点を生じていた。この方法によると脂肪酸アルカノールアミドの量が5%より少ないと、きしみ感は解消されるが、高分子ジメチルポリシロキサンを安定に分散できず、所望の効果を達成することはできなかった。また、これ

らの方法で得られる組成物は白濁状となり、外観上の美しさに劣っていた。これらにパール光沢剤を加えると外観上の美しさは満たされるが使用上の欠点を解決することはできなかった。また、長鎖アシル誘導体などを用いる方法ではパール光沢を得ることはできるが、塗布時の延展性、髪へのなじみやすさの点で好ましくなかった。このように毛髪などに対して優れた使用感、コンディショニング効果を有し、分散安定性に優れ、かつ優れたパール光沢を有するパール光沢状組成物は未だ開発されていないのである。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明者等は、前記従来技術の欠点を改良せんとして鋭意研究した結果、脂肪酸イソプロパノールアミドと界面活性剤とシロキサン化合物と特定の高分子化合物及びパール光沢剤とを配合すると上記欠点が改善されることを見出し、本発明を完成した。すなわち、本発明の目的は、毛髪などに対して優れた使用感、コンディショニング効果を有し、優れたパール光沢を有し、かつ分散安定性に優れたパール光沢状組成物を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明の請求項1は、平均炭素数が8乃至16未満のアシル基を持つ脂肪酸イソプロパノールアミド、界面活性剤、シロキサン化合物、25℃で1%水溶液の粘度が1000cps以上であるシロキサン化合物を除く高分子化合物、パール光沢剤を含有するパール光沢状組成物である。

【0006】本発明の脂肪酸イソプロパノールアミドとしては、例えば、ウンデシレン酸イソプロパノールアミド、ラウリン酸イソプロパノールアミド、ミリスチン酸イソプロパノールアミド、ヤシ油脂肪酸イソプロパノールアミド、パーム核油脂肪酸イソプロパノールアミドなどが挙げられる。

【0007】本発明の脂肪酸イソプロパノールアミドのアシル基は平均炭素数が8乃至16未満、望ましくは10～14のアシル基である。アシル基の平均炭素数が16以上の脂肪酸イソプロパノールアミドを用いるとその水への低い溶解性のために先発時のすすぎ時の感触、きしみ等の弊害が生じる。脂肪酸イソプロパノールアミドは一種または二種以上を混合して用いることができる。

【0008】本発明における界面活性剤はノニオン性、アニオン性、カチオン性、両性のいずれでもよく、特にイオン性界面活性剤が望ましい。

【0009】望ましい界面活性剤の具体例としては、脂肪酸石けん、アルキル硫酸塩型界面活性剤、アルキルエーテル硫酸塩型界面活性剤、オレフィンスルホン酸塩型界面活性剤、リン酸エステル型界面活性剤、アルキルエーテルカルボン酸塩型界面活性剤、アミノ酸塩型界面活性剤（サルコシン塩型、β-アラニン塩型、グルタミン酸塩型、アスパラギン酸塩型など）、スルホコハク酸塩

型界面活性剤、タウリン型界面活性剤等のアニオン性界面活性剤、スルホベタイン型両性界面活性剤、アルキルベタイン型両性界面活性剤、アミドプロピルベタイン型両性界面活性剤、イミダゾリニウムベタイン型両性界面活性剤等の両性界面活性剤、ジステアリルジメチルアンモニウムクロライド、ステアリルトリメチルアンモニウムクロライド、ジベヘニルジヒドロキサンモニウムクロライド、ベンザルコニウムクロライド、エチル硫酸ラノリン脂肪酸アミノプロピルジメチルアンモニウムなどのカチオン性界面活性剤などが挙げられる。

【0010】これらの界面活性剤は、通常、本発明組成物中に0.5～50%配合される。シャンプー、ボディシャンプー、洗顔料などの洗浄料に使用する場合は3～50%が望ましい。ヘアリンス、ヘアトリートメントなどの頭髮化粧料に使用する場合には0.5～20%が望ましい。

【0011】本発明のシロキサン化合物はとくに制限はないが、優れたコンディショニング効果を得るためには、25℃における粘度が5000CS以上であるジメチルポリシロキサンが望ましい。また、これらのジメチルポリシロキサンは乳化重合されたものであっても良い。

【0012】これらのジメチルポリシロキサンは一種または二種以上を混合して用いることができ、使用性を損なわない範囲で十分なコンディショニング効果を与えるためには、本発明組成物中に0.01～25%配合されることが望ましい。

【0013】本発明で使用する25℃で1%水溶液の粘度が1000cps以上(B型粘度計による)であるシロキサン化合物を除く高分子化合物としては、アニオン性、カチオン性、両性、非イオン性のいずれでも良いが、最も良好なコンディショニング効果を与えるためには、カチオン性高分子化合物、例えば、カチオン化セルロース誘導体、カチオン化グアーガム誘導体、4級化ポリビニルピロリドン誘導体、ジメチルジアリルアンモニウムクロライド誘導体、ポリグリコールポリアミン縮合物、カチオン化澱粉、カチオン化ポリペプチドなどが良く、特にカチオン化セルロース誘導体(商品名:カチナールHC-200[東邦化学工業社製]など)が望ましい。

【0014】これらの高分子化合物は一種または二種以上を混合して用いることができ、良好な分散安定性、使用性を与えるためには、本発明組成物中に0.01～5%配合されることが望ましい。

【0015】本発明で使用するパール光沢剤としては特に限定されないが、脂肪酸グリコールエステルが望ましい。例えば、ジステアリン酸エチレングリコール、ジミリスチン酸エチレングリコール、ジイソステアリン酸エチレングリコール、ジベヘニン酸エチレングリコールなどの直鎖又は分岐脂肪酸グリコールジエステル、ステ

アリン酸エチレングリコール、ミリスチン酸エチレングリコール、イソステアリン酸エチレングリコール、ベヘニン酸エチレングリコールなどの直鎖又は分岐脂肪酸グリコールモノエステルなどが挙げられ、特に好ましくは直鎖脂肪酸グリコールジエステルが使用される。また、これらのパール光沢剤は一種または二種以上を混合して用いることができる。

【0016】これらの脂肪酸グリコールエステルは全組成物中に0.1～10%配合される。配合量が0.1%未満では良好なパール光沢が得られず、10%を越えると塗布時の延展性、使用性などが悪くなることもある。

【0017】本発明のパール光沢状組成物は所望により、洗浄剤に一般に配合される成分、例えば、高級アルコール、ラノリン誘導体、蛋白質誘導体や、ポリエチレングリコールの脂肪酸エステル類等の油性成分、プロピレングリコール、グリセリン、ポリエチレングリコール等の保湿成分、脂肪酸アルカロールアミド、金属イオン封鎖剤、防腐剤、pH調整剤、紫外線吸収剤、酸化防止剤、色素及び香料等を含むことができる。

【0018】また、本発明のパール光沢状組成物は、ヘアシャンプー、ヘアリンス、ヘアトリートメント等の洗髪用製品ほか、ボディシャンプー、洗顔剤、基礎化粧料、メイクアップ化粧料、整髪料等として適用することができる。

【0019】次に本発明を実施例をもって詳細に説明するが、本発明はこれにより限定されるものではない。実施例に先立ち、各実施例で採用した試験法、評価法を説明する。

【0020】使用性及びコンディショニング性試験法
塗布時及びすすぎ時の使用感試験法(ハーフヘッド法)
パネル(10人)が頭髮に試料を塗布し、次いですすぎ洗いを行い、塗布時の延展性、なじみやすさ、およびすすぎ時の指の通り具合、髪のかしみの有無を官能評価した。

【0021】また、評価の基準を次のように設定した。

◎・・・使用感が極めて良好

○・・・使用感が良好

△・・・使用感普通

×・・・使用感劣る

【0022】使用後の髪の仕上がり感試験法

パネル(10人)が前記と同様の方法で使用した後、毛髪を乾燥させ、左右の毛髪のまとまり易さ、しなやかさ、櫛通りの良否等の仕上がり具合を官能評価した。

【0023】また、評価の基準を次のように設定した。

◎・・・仕上がり感が極めて良好

○・・・仕上がり感が良好

△・・・仕上がり感普通

×・・・仕上がり感劣る

【0024】パール光沢性

組成物を調製し、目視によりパール光沢の状態を評価し

た。

【0025】また、評価の基準を次のように設定した。

◎・・・極めて美しいパール感を有する

○・・・美しいパール感を有する

△・・・パール感を有する

×・・・パール感を有さない（白濁又は透明）

【0026】分散安定性

組成物を調製し、45℃の恒温槽で1カ月間保存し、その外観を目視により評価を行い、分散安定性を評価した。

【0027】◎・・・外観に変化なし

○・・・外観にほとんど変化なし

△・・・外観に若干の変化あり（分離・沈殿など）

×・・・外観に変化あり（分離・沈殿など）

【0028】実施例1～8及び比較例1～8では表1に記載の配合組成よりなるシャンプーを調製し、その塗布時の延展性、髪へのなじみやすさ、すすぎ時の感触、仕上がり感、分散安定性について調べ、その結果を表1に示した。

【0029】

10 【表1】

成分と特性	実施例								比較例								
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	
ラウリル硫酸トリエタノールアミン POE (3) ラウリルエーテル硫酸ナトリウム POE (4) ラウリン酸アミドエーテル硫酸トリエタノールアミン POE (5) スルホコハク酸ラウリル二ナトリウム N-ラウロイル-L-グルタミン酸ナトリウム ヤシ油脂肪酸アミドプロピルジメチルアミノ酢酸ベタイン 2-ラウロイル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタイン	20 20		20 5		5 5			10 10	20		10					20	
ラウリン酸イソプロパノールアミド ヤシ油脂肪酸イソプロパノールアミド	1	2	3	4		2	2	0.5 3				2			2	2	
ラウリン酸モノエタノールアミド ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド					1			2	10		2						
ジメチルポリシロキサン (500000CS) ジメチルポリシロキサン (500000CS)	5	4	3	2	1	2		2	4	5		5			2	2	
カチオン化セルロース誘導体 (カチナルHC-200; 東邦化学工業社製)	0.1	0.3	0.5	1	0.5	0.5	1	1	0.5	0.5	0.5	0.5			0.5	0.5	
ジステアリン酸エチレングリコール ジミリスチン酸エチレングリコール	1.0	1.5	2.0	2.5		2	2	2	2	1	1	1	1		1	1	
精製水 (実施例、比較例いずれも残余)																	
塗布時の延展性 髪へのなじみやすさ 指通り すすぎ時の感触 仕上がり感 (まとまり、しなやかさ、指通り) 外観 (パール光沢) 分散安定性	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ △ △ × ○ ○	○ × △ × ○ ○ ○	○ × × ○ ○ ○ ○	◎ ◎ △ △ × ◎ ◎	× × △ × ○ × ×	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	× × △ × △ △ △	× × × × △ △ △

【0030】表1より明らかなように、本発明の成分を用いた実施例1～8の洗浄剤はいずれも優れた性能を示していた。

【0031】一方、必須成分のどれかを欠いた比較例1

実施例9 ヘアーシャンプー

	(%)
POE (3) ラウリルエーテル硫酸ナトリウム	12
ラウロイル-N-メチル-β-アラニンナトリウム	5
ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン	5
POE (15) ラウリルエーテル	1
ミリスチン酸イソプロパノールアミド	2
ジメチルポリシロキサン (100000CS; 25℃)	6
ポリエーテル変性シリコン (商品名: SILWET L-7002 [日本ユニカー社製])	1

～8では、使用性、仕上がり感、分散安定性のいずれかの面で劣っており、本発明の目的を達成できなかった。

【0032】

7	8
カチオン化セルロース誘導体	1
(商品名: カチナールHC-200 [東邦化学工業社製])	0.5
ジステアリン酸エチレングリコール	2
POE (60) 牛脂アルキルヒドロキシミリスチレンエーテル	
(商品名: エルファコスGT282S; アクゾ社製)	1
ベタイン基含有シリコン	
(特開平3-130294号公報の実施例2に記載の組成物)	5
クエン酸	0.1
防腐剤	0.1
色素・香料	適量
水	バランス

【0033】 常法により上記組成のヘアーシャンプーを調製し、塗布時の延展性、指通り、すすぎ時の使用感、仕上がり感を評価したところ、いずれの特性も優れてお

り良好な結果を得た。

【0034】

実施例10 ふけとりシャンプー

	(%)
ラウリル硫酸アンモニウム	10
POE (3) ラウリルエーテル硫酸ナトリウム	5
N-ラウロイル-L-グルタミン酸トリエタノールアミン	3
ヤシ油脂肪酸イソプロパノールアミド	2
ジメチルポリシロキサン (10000CS; 25℃)	5
カチオン化セルロース誘導体	
(商品名: カチナールHC-200 [東邦化学工業社製])	1
ジミリスチン酸エチレングリコール	2
ジプロピレングリコール	1
ジンクピリチオン	0.5
高重合ポリエチレングリコール	
(商品名: ポリオックスWSR-301; UCC社製)	0.1
クエン酸	0.1
防腐剤	0.1
色素・香料	適量
水	バランス

【0035】 常法により上記組成のヘアーシャンプーを調製し、塗布時の延展性、指通り、すすぎ時の使用感、仕上がり感、分散安定性を評価したところ、いずれの特

性も優れており良好な結果を得た。

【0036】

実施例11 ボディシャンプー

	(%)
ヤシ油脂肪酸カルウム石鹸	10
ラウリル硫酸ナトリウム	5
ラウリルリン酸トリエタノールアミン	2
ラウリン酸イソプロパノールアミド	3
ジメチルポリシロキサン (1000000CS; 25℃)	1
ジメチルポリシロキサン (100CS; 25℃)	2
カチオン化セルロース誘導体	
(商品名: カチナールHC-200 [東邦化学工業社製])	0.2
ジステアリン酸エチレングリコール	1.5
プロピレングリコール	1
色素・香料	適量
水	バランス

【0037】 常法により上記組成のボディシャンプーを 50 調製し、塗布時の延展性、指通り、すすぎ時の使用感、

仕上がり感、分散安定性を評価したところ、いずれの特性

【0038】

実施例12 洗顔料

	(%)
ラウリン酸	5
ミリスチン酸	10
パルミチン酸	10
ステアリン酸	10
水酸化カリウム	6
ラウリン酸イソプロパノールアミド	3
ジメチルポリシロキサン (50000CS; 25℃)	0.1
カチオン化セルロース誘導体 (商品名: カチナールHC-200 [東邦化学工業社製])	0.1
ジベヘニン酸エチレングリコール	2
色素・香料	適量
水	バランス

【0039】常法により上記組成の洗顔料を調製し、塗布時の延展性、すすぎ時の使用感、仕上がり感、分散安定性を評価したところ、いずれの特性も優れており良好

な結果を得た。

【0040】

実施例13 ヘアーリンス

	(%)
ステアリルトリメチルアンモニウムクロライド	3
セトステアリルアルコール	2
POE-(5)-セチルエーテル	1
ラウリン酸イソプロパノールアミド	3
ジメチルポリシロキサン (50000CS; 25℃)	0.5
カチオン化セルロース誘導体 (商品名: カチナールHC-200 [東邦化学工業社製])	0.2
ジイソステアリン酸エチレングリコール	2
グリセリン	5
色素・香料	適量
水	バランス

【0041】常法により上記組成のヘアーリンスを調製し、塗布時の延展性、指通り、すすぎ時の使用感、仕上がり感、分散安定性を評価したところ、いずれの特性も優れており良好な結果を得た。

【発明の効果】以上記載のごとく、本発明は、毛髪などに対して優れた使用感、コンディショニング効果を有し、優れたパール光沢を有し、かつ分散安定性に優れたパール光沢状組成物を提供することができる。

【0042】

フロントページの続き

(51) Int. Cl. 6

A61K 7/08
7/50

識別記号

庁内整理番号

FI

A61K 7/08
7/50

技術表示箇所